

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **07025742 A**

(43) Date of publication of application: **27 . 01 . 95**

(51) Int. Cl

A61K 7/48

A61K 7/00

(21) Application number: **05175083**

(22) Date of filing: **15 . 07 . 93**

(71) Applicant: **KAO CORP**

(72) Inventor: **IKEBE KYOKO
SUZUKI YUJI
MASUDA MITSU HARU**

(54) **FAIR-SKINNING COSMETIC**

(57) Abstract:

PURPOSE: To obtain a beautifying cosmetic extremely suppressing change of color caused by coloration at the initial stage of production, not bringing about deterioration in performances and lowering in product value.

CONSTITUTION: A beautifying cosmetic comprises (a) one or more selected from a water-soluble derivative of

ascorbic acid, a hydroquinone derivative, a pyrone derivative and an extract of placenta, (b) one or more selected from extracts of green tea, Puerariae radix, aloe, clove, Perilla frutescens, root of Glycyrrhiza glabra, Mori cortex, root of Scutellaria baicalensis, Matricaria chamomilla L. and Althaea officinalis L. and (c) one or more selected from sulfurous acid, its salt, hydrosulfurous acid, its salt, thiosulfuric acid and its salt, pyrosulfurous acid, its salt and gallic acid.

COPYRIGHT: (C)1995,JPO

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-25742

(43)公開日 平成7年(1995)1月27日

(51)Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K 7/48		9051-4C		
7/00	X	9051-4C		
	C	9051-4C		
	D	9051-4C		
	K	9051-4C		

審査請求 未請求 請求項の数1 O L (全 7 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号	特願平5-175083	(71)出願人	000000918 花王株式会社 東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号
(22)出願日	平成5年(1993)7月15日	(72)発明者	池部 恭子 埼玉県北葛飾郡吉川町平沼2090-707
		(72)発明者	鈴木 裕二 東京都杉並区南荻窪2-14-3
		(72)発明者	増田 光晴 千葉県船橋市山手2-9-1-302
		(74)代理人	弁理士 有賀 三幸 (外3名)

(54)【発明の名称】 美白化粧料

(57)【要約】

【構成】 下記成分(a)、(b)及び(c)；

(a) アスコルビン酸の水溶性誘導体、ハイドロキノン誘導体、ピロン誘導体及び胎盤抽出物から選ばれる一種又は二種以上、(b) リョクチャ、カッコン、アロエ、チョウジ、シソ、カンゾウ、ソウハクヒ、オウゴン、カミツレ及びアルテアのそれぞれの抽出物から選ばれる一種又は二種以上、(c) 亜硫酸及びその塩、亜硫酸水素及びその塩、チオ硫酸及びその塩、ピロ亜硫酸及びその塩並びに没食子酸及びその塩から選ばれる一種又は二種以上、を含有する美白化粧料。

【効果】 製造初期の着色及び長期保存による変色を著しく抑制し、性能劣化及び製品価値の低下をもたらすことがない。

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 下記成分(a)、(b)及び(c)；

(a) アスコルビン酸の水溶性誘導体、ハイドロキノン誘導体、ピロン誘導体及び胎盤抽出物から選ばれる一種又は二種以上、(b) リョクチャ、カッコン、アロエ、チョウジ、シソ、カンゾウ、ソウハクヒ、オウゴン、カミツレ及びアルテアのそれぞれの抽出物から選ばれる一種又は二種以上、(c) 亜硫酸及びその塩、亜硫酸水素及びその塩、チオ硫酸及びその塩、ピロ亜硫酸及びその塩、水溶性ビタミンC誘導体並びに没食子酸及びその塩から選ばれる一種又は二種以上、を含有することを特徴とする美白化粧品。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は美白化粧品に関し、さらに詳しくは、初期の着色が軽減され、かつ経時により容易に変色しない美白化粧品に関する。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】従来、美白効果を示す成分としてアスコルビン酸リン酸塩、ハイドロキノン誘導体、胎盤抽出物等を配合した化粧品が知られており、さらに近年、上記美白剤に加え植物抽出物を含む化粧品が、飛躍的に向上した美白効果と皮膚保護、保湿、細胞賦活等の作用とをもたらすものとして注目されている。

【0003】しかし、上記美白剤と植物抽出物とは、化粧品基剤に配合したとき、しばしば淡黄色に着色し、該着色度は経時により増大し、褐色へと変化する。そして、この着色及び変色によって、化粧料の性能及び商品価値は大巾に下落してしまう。

【0004】そこで、初期の着色及び経時による変色を低減せしめ、性能劣化のない美白化粧料の開発が望まれていた。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明者らは、かかる実情に鑑み鋭意検討した結果、特定の美白剤、植物抽出物及び還元剤を含有してなる美白化粧料が、製造初期の着色を低減せしめ、しかも経時保存による変色を低減し得るものであることを見出し、本発明を完成するに至った。

【0006】すなわち、本発明は、下記成分(a)、(b)及び(c)；

(a) アスコルビン酸の水溶性誘導体、ハイドロキノン誘導体、ピロン誘導体及び胎盤抽出物から選ばれる一種又は二種以上、(b) リョクチャ、カッコン、アロエ、チョウジ、シソ、カンゾウ、ソウハクヒ、オウゴン、カミツレ及びアルテアのそれぞれの抽出物から選ばれる一種又は二種以上、(c) 亜硫酸及びその塩、亜硫酸水素及びその塩、チオ硫酸及びその塩、ピロ亜硫酸及びその塩、水溶性ビタミンC誘導体並びに没食子酸及びその塩

2

から選ばれる一種又は二種以上、を含有することを特徴とする美白化粧料を提供するものである。

【0007】本発明に使用される美白剤たる成分(a)のアスコルビン酸の水溶性誘導体としては、水溶性のものであれば特に限定されないが、例えばL-アスコルビン酸リン酸エステル、1価金属塩であるL-アスコルビン酸リン酸エステルナトリウム塩、L-アスコルビン酸リン酸エステルカリウム塩、2価金属塩であるL-アスコルビン酸リン酸エステルマグネシウム塩、L-アスコルビン酸リン酸エステルカルシウム塩、3価金属塩であるL-アスコルビン酸リン酸エステルアルミニウム塩、またL-アスコルビン酸硫酸エステルの1価金属塩であるL-アスコルビン酸硫酸エステルナトリウム塩、L-アスコルビン酸硫酸エステルカリウム塩、2価金属塩であるL-アスコルビン酸硫酸エステルマグネシウム塩、L-アスコルビン酸硫酸エステルカルシウム塩、3価金属塩であるL-アスコルビン酸硫酸エステルアルミニウム塩、そしてL-アスコルビン酸の1価金属塩であるL-アスコルビン酸ナトリウム塩、L-アスコルビン酸カリウム塩、2価金属塩であるL-アスコルビン酸マグネシウム塩、L-アスコルビン酸カルシウム塩、3価金属塩である、L-アスコルビン酸アルミニウム塩等が好ましいものとして挙げられる。これらのうち、L-アスコルビン酸リン酸塩がとくに好ましい。

【0008】ハイドロキノン誘導体としては、ハイドロキノンと糖の縮合物、ハイドロキノンに炭素数1~4のアルキル基を1個導入したアルキルハイドロキノンと糖の縮合物等が挙げられ、例えばアルブチン等が挙げられる。

【0009】ピロン誘導体としては、コウジ酸及びその誘導体が挙げられる。コウジ酸誘導体としては、上記コウジ酸から合成されるものが使用でき、例えばコウジ酸モノブチレート、コウジ酸モノカブレート、コウジ酸モノバルミテート、コウジ酸モノステアレート、コウジ酸モノシナメート又はコウジ酸モノベンゾエートなどのモノエステル；コウジ酸ジブチレート、コウジ酸ジバルミテート、コウジ酸ジステアレート又はコウジ酸ジオレエートなどのジエステル等が挙げられる。

【0010】胎盤抽出物の具体例としては、ウシ、ウマ、ブタ等の動物胎盤、ヒト胎盤から抽出される水溶性又は油溶性エキスが挙げられる。上記胎盤抽出物を得る方法としては、例えばウシ、ウマ、ブタ又はヒト等の哺乳動物の胎盤を洗浄、除血、破碎、凍結等の手段を経て、水溶性成分を抽出した後、さらに不純物を除去する方法を挙げることができる。これらは、水溶性プラセンタエキスとして一般に市販され化粧品原料として使用されている。

【0011】成分(a)は一種でも、二種以上を混合して使用してもよい。

【0012】上記成分(a)の本発明化粧料への配合量

3

は0.1~20重量% (以下、単に「%」という) が好ましく、特に1~20%が好ましい。0.1%未満では効果が得られにくく、一方、20%を超えると製剤化しにくい。

【0013】本発明に使用される成分(b)のリョクチャ、カッコン、アロエ、チョウジ、シソ、カンゾウ、ソウハクヒ、オウゴン、カミツレ及びアルテアのそれぞれの抽出物を得る方法としては、例えば水又は親水性有機溶媒で抽出して抽出液を得る方法、さらにこの抽出液を乾燥させ、粉末を得る方法等が挙げられる。親水性有機溶媒としては、例えばメタノール、エタノール、1,3-ブチレングリコール、プロピレングリコール等が挙げられる。これらの溶媒は単独でも、二種以上組合せ使用してもよい。また、水とこれらの溶媒を混合して使用してもよい。

【0014】成分(b)は、一種でも、二種以上を混合して使用してもよい。

【0015】上記成分(b)の本発明化粧料への配合量は固形分として0.0001~20%が好ましく、特に1~20%が好ましい。0.0001%未満では効果が得られにくく、一方、20%を超えると配合上問題がある。

【0016】成分(a)と成分(b)との本発明化粧料への配合量は、0.1~40%が好ましく、特に0.1~10%が好ましい。0.1%未満では美白効果が得られず、一方、40%を超えると配合上問題がある。

【0017】本発明に使用される還元剤たる成分(c)のうち、水溶性ビタミンC誘導体の具体例としては、アスコルビン酸リン酸マグネシウムが挙げられる。また、各種酸の塩としては、ナトリウム塩及びカリウム塩が好ましい。

【0018】成分(c)は、前記成分(a)及び成分(b)の合計量に対し0.01~100%配合されることが好ましく、0.1~10%配合されることが特に好ましい。0.1%未満では着色及び変色防止効果が得られにくく、一方、100%を超えると配合上問題がある。

【0019】本発明の美白化粧料には、本発明の効果を損わない範囲において、上記必須成分以外の通常化粧品、医薬部外品、医薬品等に用いられる各種任意成分を適宜配合することができる。かかる任意成分としては、例えば精製水、エタノール、油性物質、保湿剤、増粘剤、防腐剤、乳化剤、薬効成分、粉体、紫外線吸収剤、色素、香料、乳化安定剤、pH調整剤等を挙げることができる。具体的には、油性成分としては流動パラフィン、ワセリン、パラフィンワックス、スクワラン、ミツロウ、カルナウバロウ、オリーブ油、ラノリン、高級アルコール、脂肪酸、高級アルコールと脂肪酸の合成エステル油、シリコーン油等が挙げられ、保湿剤としてはソルビトール、キシリトール、グリセリン、マルチトール、

4

プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、1,4-ブチレングリコール、ピロリドンカルボン酸ナトリウム、乳酸、乳酸ナトリウム、ポリオキシプロピレン脂肪酸エステル、ポリエチレングリコール等が挙げられ、増粘剤としてはカルボキシビニルポリマー、カルボキシメチルセルロース、ポリビニルアルコール、カラギーナン、ゼラチン等の水溶性高分子、塩化ナトリウム、塩化カリウム等の電解質などが挙げられ、防腐剤としては尿素、メチルパラベン、エチルパラベン、プロピルパラベン、ブチルパラベン、安息香酸ナトリウム等が挙げられ、乳化剤としてはポリオキシエチレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、グリセリン脂肪酸エステル、ポリグリセリン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレングリセリン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油、ポリオキシエチレンソルビトール脂肪酸エステル等の非イオン界面活性剤が挙げられ、粉体としてはタルク、セリサイト、マイカ、カオリン、シリカ、ベントナイト、パーミキュライト、亜鉛華、雲母、雲母チタン、酸化チタン、酸化マグネシウム、酸化ジルコニウム、硫酸バリウム、ベンガラ、酸化鉄、群青等が挙げられ、pH調整剤としては乳酸-乳酸ナトリウム、クエン酸-クエン酸ナトリウム、リン酸-リン酸ナトリウムなどの緩衝剤が挙げられる。

【0020】本発明の美白化粧料は、混合、加熱、攪拌等、常法に従って、乳液、クリーム、ペースト、ゲル等各種剤型に調製することができる。

【0021】

【発明の効果】本発明の美白化粧料は、製造初期の着色を低減せしめ、しかも長期にわたる保存においても変色が著しく低減されたものであり、性能劣化及び製品価値の低下をきたすことがない。

【0022】

【実施例】以下に本発明を実施例により具体的に説明するが、本発明はこれらに限定されるものではない。

【0023】実施例1~3及び比較例1~3

表1に組成を示すクリーム状化粧料を下記製法により得た。

【0024】(製法)油相成分(A)、水相成分(C)を80℃で溶解し、40℃まで冷却した後、水相成分(C)に美白成分(B)を加え溶解する。油相成分(A)に攪拌しながら水相成分(B)+(C)を加え乳化した後、攪拌しながら室温まで戻冷却する。

【0025】得られた化粧料のそれぞれについて、製造初期の着色抑制効果を目視により下記基準で評価し、さらに40℃にて2ヶ月間保存後変色抑制効果を目視により下記基準で評価した。結果を併せて表1に示す。

【0026】(着色抑制効果評価基準)

○:あり。

△:ややあり。

*△：変色あり。

×：非常に変色あり。

【0028】

* 【表1】

一丸 アコル ススバウダ
一丸 フアコル ススバウダ
一丸 フアコル ススバウダ
一丸 フアレキッ ド (固形分：2.0～4.0%)
一丸 カツレキッ ド (固形分：1.0～2.5%)

製、製、製

(株) (株) (株)

123

を 80℃で溶解し、40℃まで冷却した後、水相成分 (C) に美白成分 (B) を加え溶解する。油相成分 (A) に攪拌しながら水相成分 (B) + (C) を加え乳化した後、攪拌しながら室温まで冷却する。

【0 0 3 2】

【表 2】

組 成	被 験 物	(%)									
		実施例 4	実施例 5	実施例 6	実施例 7	実施例 8	実施例 9	実施例 10			
(A)	トリスチレン酸グリセリンセリル	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
	オモストオス	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
(B)	アミノアップ化学(株)製、シソエキスNA	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
	オモストオス	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
(C)	アミノアップ化学(株)製、シソエキスNA	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
	オモストオス	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0

【0033】*4 一丸ファルコス(株)製、ファルコ
レックス ソウハクヒ

*5 丸善製薬(株)製、油溶性甘草エキスP-T(4
0)(パウダー)

*6 丸善製薬(株)製、アロエ抽出液

*7 一丸ファルコス(株)製、カッコンエキスパウダ

ー

*8 一丸ファルコス(株)製、フレックス チョウジ

*9 アミノアップ化学(株)製、シソエキスNA

*10 一丸ファルコス(株)製、オウゴンエキスパウダ 50

ー

*11 一丸ファルコス(株)製、緑茶リキッド

*12 一丸ファルコス(株)製、カミツレリキッド

【0034】得られた本発明品を前記と同様に試験した
ところ、いずれも良好な着色及び変色抑制を示した。

【0035】実施例11~14

表3に組成を示す美容液化粧料を下記製法により得た。

【0036】(製法) (A)の成分を攪拌分散した後、
これに(D)を65部加え(F)とする。一方、
(B)、(E)の成分を攪拌溶解した後、残量の(D)

を加えこれを (G) とする。(F) を攪拌しながら (G) を加え均一にした後、(C) の成分を加え攪拌溶解する。

* 性プラセンタエキスを使用了。

【0038】

【表3】

【0037】なお、胎盤抽出物はニチレイ（株）製水溶*

(%)

組 成	被 験 物	実施例11	実施例12	実施例13	実施例14
(A)	1. グリセリン 3. ブチレングリコール セリン タリウム コンドロイチン硫酸ナトリウム ヒアルロン酸ナトリウム	8.0 4.0 0.3 0.1 0.05	8.0 4.0 0.3 0.1 0.05	8.0 4.0 0.3 0.1 0.05	8.0 4.0 0.3 0.1 0.05
(B)	エタノール ポリオキシエチレンポリオキシ プロピレンデシルテトラデシ ルエーテル	3.0 0.3	3.0 0.3	3.0 0.3	3.0 0.3
(C)	エデト酸四ナトリウム アルブチン 胎盤抽出液*6 アロエ抽出液*9 シソ抽出液*2 チョウジ抽出液*3 リョクチャ抽出液*13 アロエ抽出液*13 亜硫酸水素ナトリウム	0.1 3.0 10.0 5.0 — — — 1.0 0.5	0.1 3.0 — — 3.0 3.0 — 1.0 0.5	0.1 3.0 1.0 5.0 3.0 — — 1.0 0.5	0.1 3.0 1.0 5.0 3.0 — — 1.0 0.5
(D)	精製水	残量	残量	残量	残量
(E)	防腐剤 香料 pH	適量 適量 5~7	適量 適量 5~7	適量 適量 5~7	適量 適量 5~7

*13：一丸ファルコス（株）製、ファルコレックスアルテア

【0039】得られた本発明品を前記と同様に試験した 30 ところ、いずれも良好な着色及び変色抑制を示した。

【手続補正書】

【提出日】平成5年8月16日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項1

【補正方法】変更

【補正内容】

【請求項1】 下記成分 (a)、(b) 及び (c)；

(a) アスコルビン酸の水溶性誘導体、ハイドロキノン誘導体、ピロン誘導体及び胎盤抽出物から選ばれる一種又は二種以上、(b) リョクチャ、カッコン、アロエ、チョウジ、シソ、カンゾウ、ソウハクヒ、オウゴン、カミツレ及びアルテアのそれぞれの抽出物から選ばれる一種又は二種以上、(c) 亜硫酸及びその塩、亜硫酸水素及びその塩、チオ硫酸及びその塩、ピロ亜硫酸及びその塩並びに没食子酸及びその塩から選ばれる一種又は二種以上、を含有することを特徴とする美白化粧料。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正内容】

【0006】すなわち、本発明は、下記成分 (a)、(b) 及び (c)；

(a) アスコルビン酸の水溶性誘導体、ハイドロキノン誘導体、ピロン誘導体及び胎盤抽出物から選ばれる一種又は二種以上、(b) リョクチャ、カッコン、アロエ、チョウジ、シソ、カンゾウ、ソウハクヒ、オウゴン、カミツレ及びアルテアのそれぞれの抽出物から選ばれる一種又は二種以上、(c) 亜硫酸及びその塩、亜硫酸水素及びその塩、チオ硫酸及びその塩、ピロ亜硫酸及びその塩並びに没食子酸及びその塩から選ばれる一種又は二種以上、を含有することを特徴とする美白化粧料を提供するものである。

【手続補正3】

(7)

特開平7-25742

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0017
【補正方法】変更
【補正内容】

【0017】本発明に使用される還元剤たる成分(c)の各種酸の塩としては、ナトリウム塩及びカリウム塩が好ましい。

フロントページの続き

(51)Int. Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K 7/00	B	9051-4C		
	H	9051-4C		